

議員提出議案第12号

生涯学習センター「まなびタウンとうはく」の改修を最小限に抑制することを求める決議

上記の議案を別紙のとおり琴浦町議会会議規則第14条第1項及び第2項の規定により提出する。

令和3年6月17日 提出

提出者	琴浦町議会議員	大平高志
賛成者	同	井木裕
	同	福本まり子

令和3年 月 日

琴浦町議会議長 小 椋 正 和

生涯学習センター「まなびタウンとうはく」の改修を最小限に抑制することを求める決議（案）

本年3月定例議会において、改修に向けての「詳細設計予算 8,177 万円」が減額修正動議により削減された。焦点である「まなびタウンとうはく」（生涯学習センター）は生涯学習の拠点として平成9年に建設され、多くの町民や県内の団体に活用されて今日に至っている。

この「まなびタウンとうはく」の基本設計は令和2年度当初予算に計上されたものだが、提案理由を「事業説明書」で、「老朽化している施設の長寿命化に向けて、空調設備の基本設計を委託します（P14-7）」と説明している。

また、その後の7月臨時議会の補正では1,600万円追加しているが、その理由は「・・・町民の求める新たな機能・役割の視点を取り入れ…基本設計を行う経費を追加する」と説明している。4年前には大規模な外壁の修繕工事を行っていることから、予算の提案理由の説明を受けた議員は、何らの疑問も抱かず、空調の設備改修による長寿命化と受け取ったのである。これはある意味、意図的に基本設計の本意を隠したといってもいいものであった。

3月に公表された「中期財政収支見通」では、わが町の基金残高は減少傾向にあり2026年度には枯渇し、実質公債費比率（単年度）は2024年度に許可制直前の17.6%になると予測しているし、町の財政構造の弾力性は「鳥取県市町村要覧（R2年版）」で見ても、経常収支比率や公債費負担比率を見ても県内市町村の中で最悪レベルとなっている。

このような琴浦町が置かれている状況の中にあって、3月議会で明らかになった「まなびタウンとうはく」の詳細設計案とそれに続く改修工事を実行に移すことに対して多くの町民が不安を覚えている。加えて、こういった計画の枠外に教育委員会や民俗資料館の移転などもあり、公共事業の大盤振る舞いは厳に抑制すべきである。

今後提案されるであろう「まなびタウンとうはく」の詳細設計は、以上縷々述べた理由により、必要最小限の改修に抑制すべきである。

以上決議する。

令和3年6月17日

鳥取県東伯郡琴浦町議会